

令和6年度 社会福祉法人三社会事業報告

1 事業報告にあたって

令和5年5月コロナウイルス感染症が5類へ移行され、令和6年度は、福祉の世界は入居施設を除き、特に保育所は全く普通の生活に戻り、4年ぶりに法人交流会を開催しました。久しぶりの交流会でしたが、長い空白期間と物価上昇によるホテルのサービスの変化に職員は戸惑ったようです。

保育については本部事務局を設け、これまで平和保育園が負っていた給与、社会保険、採用・退職業務、職員リクルートなどの本部事務を事務局への移行を図りましたが、給与が絡むだけにシステムの採用は慎重さが求められ予定より時間がかかっています。

コロナ禍の間に顕著になった定員未充足の問題はさらに進んでいます。北区と板橋区が大きな影響を受けており、特に平和保育園は4月から民間化された板橋保育園が同じ町内に開園したこともあり、大きな影響を受け、利用定員を130名としましたが、定員を満たすことはありませんでした。

急激な物価上昇と人件費の高騰を受けて保育所の公定価格が改訂されましたが、年度末近くの発表だったため3月末の一時金で対応しました。

公益事業は全体として昨年度から黒字転換をし、日野市拠点の「コンシェルジュ」は多摩地区で業績を伸張させていますが、板橋区拠点の「はいさい」は苦戦を強いられており、管理者と看護師が帰郷するため7年度中の休止を余儀なくされそうです。障害者福祉・高齢者介護事業は6月にスタートし、徐々にサービスの幅を広げています。

地域貢献事業としては富士見町自治会・シニアクラブ等が本部施設を利用しています。

ウクライナから避難している母娘への宿舎提供も継続しています。

2 事業経営

【本部】

- ・本部事務局に専任事務を置き、本部機能強化をはかった。
- ・6月23日にリーガロイヤル東京で法人交流会を開催した。

【施設運営】

児童受託状況

- ・定員未充足が顕著な地域と、まだ保育ニーズの安定している地域が併存しているが、少子化は確実に進んでおり、全園とも未充足対応が必要となった。
- ・平和保育園の利用定員は130名とした。
- ・光が丘わかば保育園は職員体制が整わず、1歳1年保育を中止することとなった。

職員体制

・深大寺保育園・浮間東保育園・光が丘わかば保育園は退職職員の補充が出来ないままのスタートとなった。年度当初の配置だけでなく、年度半ばで退職する職員が増えており、補充対策のため年間を通して保育士確保に努めたが、充足は叶わなかった。

第三者評価

- ・今年度は王子北保育園・仙川保育園・浮間東保育園が受審した。

職場改善

・パワーハラスメント対策として、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの笠原氏が全園で研修を行った。

評価制度の定着

・職員が自身の将来像を描けるような評価制度の定着を図った。

3 理事会

5回開催

5月 令和5年度事業報告、決算報告

6月 補正予算

10月 補正予算、借上げ住宅

1月 補正予算、定款細則、常勤役員報酬規程、資産運用」、役員退職慰労金、評議員会の開催

3月 補正予算、深大寺施設長、給食業務委託業者の選定、訪問看護ステーションはいさいの休止
令和7年度事業計画、予算

4 評議員会

2回開催

6月 令和5年度決算報告

3月 常勤役員報酬規程、役員退職慰労金規定

5 園長会

毎月1回開催、

6 主任会議

2ヶ月に1回開催

7 リーダー会

3カ月に1回開催

8 会計チェック

9月末、12月末、2月末に伊東税理士事務所で行った。